

『教育じほう』一九六一年八月（東京都新教育研究会）

■世界の教育事情

東南アジア

教育よりもまず生活の向上を

国立教育研究所員 矢口 新

東南アジアといっても、いろいろな国があるのであるから、その教育を一括して述べることはむずかしい。しかし、少ない紙数ではその共通する特色を問題にするほかあるまい。タイを除いてはつい最近まで植民地であった国々であるから、その教育についても、どういう問題があるかはだいたい察しがつくであろう。なんといっても、教育を受ける習慣のない国民大衆が多いということは、各国の共通した大問題である。それは植民地であった時代からの伝統であるが、植民地であるにしろないにしろ、教育を受けないでも生活できたという事実も動かすことのできない事実であるから、教育を受ける習慣をいかにつけるかということとはなかなかむずかしい問題である。為政者の頭をなやます問題はまず第一にその点であろう。

教育といえ、日本ではよみかきといったものがすぐ頭に浮かび、そういう点はどうした形になっているかというように考えがちであるが、長い間、よみかきといったものを必要としない生活が成り立ってきたのであるから、われわれの感覚とはまるでちがうのである。シンガポールへ行った時、向こうの役人が、「お前の国は義務教育が常

識になっているから問題はないが、ここでは、ほうっておけば、子どもでもそこらでタバコのすいがらをひろっているのが多いのだから、まず、毎日学校へ来る習慣をつけるのが大切である。親も、学校へ来ないのをなんとも思わない人だから仕事は大変だ。学校へ来て、よみかきより、まず働くことや身体を健康にすること、清潔を保つことなどから教育することである。さらに働く習慣を身につけることが何より大切だ」と語っていた。

これは、東南アジア諸国で、教育というものがいかなる意味をもっているかをよく表わしている。こういう地盤で、国民大衆の教育を考へなければならぬ。教育の前に生活の近代化ということがあると思う。教育を受けなければ生活できないといった感覚がないのであるから、教育をうけることに熱心にならないのは当然である。しかし、それは生活自体がまだ自給自足といつては言いすぎだが、そういうものに近い農村生活である。農業の技術も未発達である。自然の生活の中へ、どうやって文化を入れるかという問題が基本的な問題としてある。したがって、教育もまたそういう方向へ位置づいたものとなるのは当然であろう。前にあげたシンガポールの話もそうであるが、どの国も同様な問題をもっている。

マラヤ

マラヤでは、各地に青少年クラブというのがあったが、このクラブはちよつとしたクラブハウスをもっていて、そこには、大工の仕事、木工、竹細工、女子の編物、刺しゅうなどを教える施設があった。また国立の青年運動指導者訓練所も、コースはだいたい職業技術を中心にしてできあがっている。やはり青少年が手に職をもち、近代社会の中で生活できるようにすることを中心としているといった感が深か

った。

ビルマ・インドネシア

ビルマやインドネシアなどは、第二次大戦後独立してから、四年間の義務教育を奨励し、現在七〇〜八〇パーセントの就学率となっている国である。マラヤも比較的国が豊かなので、その方面では目ざましい発展をしている。六〇パーセントくらいまでここ二、三年の間に進んだらしい。こうしてみると、各国とも教育には熱を入れていくことがわかる。教科書は無償で国家が配付している。前に述べたようなふんい気の中で、これだけの成果をあげて行くのにはそうとうな努力がいる。為政者の努力を思うべきであると同時に、今後がたのしみである。

明治時代の日本もそうであったが、これらの諸国が力を入れているのは、もう一つ高等教育である。だいたいこれらの国のごく少数の指導者たちは、国民大衆とはちがって非常に高い教育を受けている。ヨーロッパの大学に学び、生活も欧米人なみである。ケンブリッジとかオックスフォードだとかの卒業生もざらにいる。そういう少数の人々の教育機関は、どの国でもりっぱなものをもっている。日本でも、一流に属するような小・中・高等学校、大学があるのである。ただそれは、一つまみの人々の教育機関である。

これらの国々が、教育を発展させるためにはさまざまな問題がある。たとえば言語がある。一国の中にさまざまな言語があること、言語の中に、近代文化を表現する言葉がないこと、すなわち、自然科学や技術、社会科学を自国語では、表現できないということもある。また、宗教の伝統が強くて、必ずしも近代教育の方向と一致しないこともある。それらをどう克服するかという問題は、教育の問題でもあり社会の問題でもある。

*ライブラリ編集部注

本稿は、勝部真長氏（お茶の水女子大学教授）との共同執筆で、勝部氏がインド、パキスタン、セイロン、矢口がマラヤ、ビルマ、インドネシアを担当している。

本ライブラリーには、矢口の担当した部分のみを収録した。